

(様式第 10)

産医大発第 140369 号
平成 26 年 10 月 3 日

九州厚生局長 殿

学校法人産業医科大学
開設者名 理事長 森山 寛 (印)

産業医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 25 年度の業務
に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒807-8556 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1 - 1
氏 名	学校法人 産業医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には
法人の名称を記入すること。

2 名 称

産業医科大学病院

3 所在の場所

〒807-8556 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1 - 1	電話 (093) 603 - 1611
------------------------------------	-----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度か つ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科							<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
内科と組み合わせた診療科名等								
1	2	3	4	5	6	7		
8	9	10	11	12	13	14		
診療実績								

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に
ついて記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記
入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で
医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名						
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="checkbox"/> 1精神科	<input checked="" type="checkbox"/> 2小児科	<input checked="" type="checkbox"/> 3整形外科	<input checked="" type="checkbox"/> 4脳神経外科	<input checked="" type="checkbox"/> 5皮膚科	<input checked="" type="checkbox"/> 6泌尿器科	<input checked="" type="checkbox"/> 7産婦人科
8産科	9婦人科	<input checked="" type="checkbox"/> 10眼科	<input checked="" type="checkbox"/> 11耳鼻咽喉科	<input checked="" type="checkbox"/> 12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		<input checked="" type="checkbox"/> 15麻酔科	<input checked="" type="checkbox"/> 16救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1 歯科・口腔外科	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 神経内科	2 形成外科	3 心臓血管外科	4 リハビリテーション科	5 呼吸器内科		
6 病理診断科	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21					

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	床	床	床	638床	678床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	385人	1.2人	386.2人	看護補助者	72人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	11人	0.4人	11.4人	理学療法士	15人	臨床検査技師	48人
薬 剤 師	35人	0人	35人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	3人	その他	0人
助産師	27人	0人	27人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	688人	14.6人	702.6人	臨床工学技士	9人	医療社会事業従事者	10人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	2人
歯科衛生士	1人	0人	1人	歯科技工士	1人	事務職員	74人
管理栄養士	5人	0人	5人	診療放射線技師	36人	その他の職員	47人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 26 年 9 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	19人	眼科専門医	7人
外科専門医	23人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精神科専門医	5人	放射線科専門医	18人
小児科専門医	13人	脳神経外科専門医	7人
皮膚科専門医	4人	整形外科専門医	12人
泌尿器科専門医	9人	麻酔科専門医	6人
産婦人科専門医	11人	救急科専門医	2人
		合 計	143人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	558.7人	7.6人	556.3人
1日当たり平均外来患者数	1505.3人	62.0人	1567.3人
1日当たり平均調剤数			1184.7剤
必要医師数			144.7125人
必要歯科医師数			2人
必要薬剤師数			19人
必要(准)看護師数			337人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日

で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要		
			病床数	心電計	心細動除去装置
集中治療室	203.51 m ²	鉄筋コン クリート	10床	有・無	有・無
			人工呼吸装置	有・無	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	104.76m ² 7台	病床数	10床
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	16.96 m ²		
化学検査室	175.41m ²		(主な設備) BM2250 3台		
細菌検査室	66.41m ²		(主な設備) VITEK II 2台、IA20MICmK II 1台、BACTECF X 1台		
病理検査室	71.69m ²		(主な設備) デジタルスライドスキャナ(バーチャルスライド作成機) 1台、免疫染色装置2台、密閉式自動固定包埋装置2台		
病理解剖室	58.53m ²		(主な設備) 特殊解剖台2台、排水殺菌システム1台		
研究室	2011.5 m ²		(主な設備) 別紙		
講義室	1203.51m ²		室数 10室	収容定員	1,122人
図書室	2,480m ²		室数 1室	蔵書数	121,114冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	73.9%	逆紹介率	51.6%
算出根拠	A: 紹介患者の数		14,669人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11,764人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,164人
	D: 初診の患者の数		22,780人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	PCRを用いたニューモシスチス肺炎の診断(第1内科)	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 PCR法を用い、患者の誘発喀痰検体から抽出した微量のDNAを増幅し、Pneumocystis jiroveci DNAの検出に基づく診断を行う技術である。 特に膠原病・リウマチの治療に伴う日和見感染症としてのニューモシスチス肺炎を早期に診断して治療開始することにより、予後の著しい向上を得ている。			
医療技術名	持続皮下血糖測定システム(CGMS)を用いた血糖測定(第1内科)	取扱患者数	140人
当該医療技術の概要 糖尿病患者腹部に刺したセンサーが間質液から5分毎に糖濃度の平均値によって血糖値を算出する技術である。1つのセンサーで最大3日間連続測定が可能で、機器をはずしてPCにデータを送ると、蓄積した測定データからその日の血糖推移のグラフが作成できる。これによりインスリン療法、経口剤を用いた血糖コントロールは言うまでもなく血糖推移のグラフを見せることで患者教育においても著しい効果を発揮している。			
医療技術名	自己免疫疾患に対する免疫吸着療法(第1内科)	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 抗DNA抗体をはじめとする自己抗体高値の膠原病(SLE、MCTD)等に関して自己抗体に特異的な吸着カラムを用いた体外循環により自己抗体の除去を行なう。 既に産生された自己抗体の物理的除去は、免疫抑制剤との併用により高い効果をもたらしている。			
医療技術名	既存治療抵抗性SLEに対する抗CD20抗体療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 既存治療抵抗性全身性エリテマトーデスに対して抗CD20抗体リツキシマブによるB細胞除去を行い、非常に高い疾患活動性を抑制し臓器障害を回避しえた。			
医療技術名	リンパ球表面P糖蛋白発現解析による自己免疫疾患のオーダーメイド治療(第1内科)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 自己免疫疾患の疾患活動性、治療抵抗性を末梢血リンパ球表面上のP糖蛋白の発現により評価し、治療方針の決定に応用するものである。B、Tリンパ球にわけて評価することにより、免疫抑制療法の選択を行いオーダーメイド治療に役立っている。			
医療技術名	自己免疫疾患による活動性間質性肺炎に対するウリナスタチンパルス療法(第1内科)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 強力な免疫抑制療法の継続が困難な自己免疫疾患に伴う活動性間質性肺炎に対して、ウリナスタチンのパルス療法を施行し、感染の誘発などを認めることなく、症状、CT所見などの改善を得ている。			
医療技術名	16SrRNA遺伝子を用いた網羅的な細菌叢解析(呼吸器内科)	取扱患者数	263人
当該医療技術の概要 細菌のみが保有する16SrDNA遺伝子を用いて、検体中の細菌DNAのクローンライブラリーを作製し、それぞれの塩基配列を決定することにより、検体中にどんな細菌がどれぐらい存在するかを把握可能であり、感染症診療に役立つ。			
医療技術名	経皮的エタノール注入療法(第3内科)	取扱患者数	45人
当該医療技術の概要 迅速な組織の脱水固定作用をもち、かつ毒性の少ないエタノールを超音波誘導下に細い穿刺針を用いて肝腫瘍内に注入することにより、腫瘍を壊死させる治療法である。原則として、腫瘍径3cm以下、腫瘍数3病変以下の症例を適応としている。			

医療技術名	経皮経肝的胆道ドレナージ(第3内科)	取扱患者数	18人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>経皮経肝的に超音波誘導下に胆管を穿刺し、ドレナージチューブを胆管内に挿入し留置する手技。胆道閉鎖の減黄や、急性化膿性閉鎖性胆管炎に対する緊急ドレナージとして施行している。肝内胆管拡張のみられない例に対しては、経皮経肝的胆嚢ドレナージ(PTGBD)も施行している。</p>			
医療技術名	経皮経肝的膿瘍ドレナージ(第3内科)	取扱患者数	3人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>PTBDの手技に準じ、肝膿瘍内にドレナージチューブを挿入・留置し、ドレナージをはかっている。</p>			
医療技術名	内視鏡的逆行性胆道ドレナージ(第3内科)	取扱患者数	115人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>経乳頭的に胆管を造影し、閉塞部位を確認した後それに引き続いてガイドワイヤーを用い狭窄部を通過させ、ワイヤーガイド下にドレナージチューブ下にドレナージチューブを胆管内に留置する。主として悪性胆道閉塞例に対し、長いドレナージチューブを留置して、経鼻的に外瘻とする内視鏡手的経鼻胆管ドレナージ(ENBD)と内瘻とする内視鏡的胆管ドレナージ(ERBD)を施行している。</p>			
医療技術名	胆管ステント留置術(第3内科)	取扱患者数	10人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>患者のQOLを考慮し、根治手術不能な悪性胆道閉塞に対してメタリックステントを用いて施行している。最近ではポリウレタンでメタリックステントをカバーしたcovered stentを用いている。</p>			
医療技術名	経皮敵ラジオ波焼却療法(第3内科)	取扱患者数	98人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>Radiofrequency ablation(RFA)と呼ばれる治療法は、マイクロ波より周波数の低いラジオ波(460~480KHz)を用いて、腫瘍組織内に熱を発生させ、破壊する方法。超音波誘導下に経皮的に腫瘍部に穿刺する。</p>			
医療技術名	白血球除去療法(第3内科)	取扱患者数	2人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>潰瘍性大腸炎の活動期における緩解促進のための顆粒球吸着用白血球除去カラムを使用し、吸着型の血液浄化をする方法。</p>			
医療技術名	超音波内視鏡下吸引針生検(EUS-FNA)(第3内科)	取扱患者数	84人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>膵癌や消化管粘膜下腫瘍に対して、病理学的診断材料に係る目的にて行っている。</p>			
医療技術名	内視鏡的経乳頭胆管生検(第3内科)	取扱患者数	18人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>胆道癌の確定診断のために経乳頭的に生検鉗子を挿入し、透視下に場所を確認し、生検する方法で、従来のブラッシング細胞診に比べ陽性率向上が期待される。</p>			

医療技術名	内視鏡的粘膜剥離術(第3内科)	取扱患者数	61人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>胃癌、食道癌、大腸癌を内視鏡的に切除する方法で、従来の粘膜の切除と比較して、大型の病変を一括に切除できる。現在15mm以上の病変で、この方法により治療している。</p>			
医療技術名	修正型電気けいれん療法(神経・精神科)	取扱患者数	25人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>主に難治性うつ病患者を対象に中央手術室において全麻下で電気けいれんを施行する。</p>			
医療技術名	集団精神療法(神経・精神科)	取扱患者数	20人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>休職者を対象とした集団精神療法</p>			
医療技術名	非血縁臍帯血移植(小児科)	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>難治性白血病に対する臍帯血バンクを利用した臍帯血移植</p>			
医療技術名	血縁末梢血造血幹細胞移植(小児科)	取扱患者数	2人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>白血病やリンパ腫に対する寛解導入療法寛解時の併用抹消血幹細胞移植</p>			
医療技術名	遊離空腸食道再建術(第1外科)	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>喉頭、頸部食道全摘後に空腸片を採取して、頸部血管と空腸部静脈を吻合(血行再建)し、咽頭空腸、空腸食道を吻合する。</p>			
医療技術名	単孔式内視鏡手術(第1外科)	取扱患者数	83人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>スコープや鉗子などの手術器具を1ヶ所の切開創から挿入して行う術式。整容上の利点などがあり、胆のう摘出術の他、総胆管切石術、肝部分切除術、胃局所切除術等を行っている。</p>			
医療技術名	内視鏡下乳房温存手術(第1外科)	取扱患者数	21人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>温存手術可能な原発性乳癌に対し、腋窩部と傍乳輪の小切開創から内視鏡や鉗子等の手術器具を挿入して行う術式。整容性の向上や出血量減少等の利点がある。</p>			

医療技術名	鏡視下肝胆膵手術(第1外科)	取扱患者数	20人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>肝胆膵領域の疾患に対し、スコープ、鉗子等を用いて行う術式。整容性に優れており、手術侵襲の軽減、QOLの向上により入院期間の短縮につながる。術式としては、肝部分切除や外側区域切除、肝嚢胞開窓術、総胆管切除術、膵頭十二指腸切除術、尾側膵切除等を行っている。</p>			
医療技術名	慢性疼痛疾患に対する脊髄電気刺激療法(脳神経外科)	取扱患者数	12人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>中枢神経疾患にともなう慢性の体幹及び四肢の疼痛に対して脊髄硬膜外に電極を設置して疼痛を電気刺激により治療する。</p>			
医療技術名	四肢痙性に対するバクロフェン注入療法(脳神経外科)	取扱患者数	10人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>種々の中枢性疾患により四肢の痙性が強くなり、関節拘縮などにより運動機能障害をきたす。これらの状態に対して、脊髄髄腔内にバクロフェンを体内に埋め込んだ微量注入ポンプからバクロフェンを注入して治療する。</p>			
医療技術名	脳腫瘍手術における脳機能マッピング(脳神経外科)	取扱患者数	73人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>脳腫瘍(突発性)はあらゆる脳の部位に発生するが、運動、言語などの領域に発生すると摘出する際、重大な後遺症を残す。術中に運動野や言語野を電気刺激してこれらの部位をさけて摘出を行うことで術後の障害を防ぐ。</p>			
医療技術名	術中腫瘍の蛍光診断(脳神経外科)	取扱患者数	30人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>悪性脳腫瘍、特に神経膠腫の予後ほどこまで手術中に摘出できたかに左右される。腫瘍細胞に術前5-ALA(蛍光色素を発生する薬物)を投与し、術中に光をあてることによって発生する蛍光で残存腫瘍をできる限り取り除く。</p>			
医療技術名	金属材料を用いた脊柱再建固定術(整形外科)	取扱患者数	61人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>脊椎の外傷や脊椎の腫瘍により脊椎が不安定になり、脊椎の障害(下肢麻痺)や耐え難い疼痛などを発症する。これらの患者に対しては金属材料を用いて強固な内固定をすることにより、疼痛や麻痺が改善され、しかも術後早期に離床が可能となる。</p>			
医療技術名	頸椎前方固定術、頸椎椎弓形成術(整形外科)	取扱患者数	54人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>頸椎症性脊髄症に対して、我々は頸椎椎弓形成術(椎弓を向開きとして、椎弓を温存し、脊柱管を拡大する)を中心とする後方除圧を目的とした後方進入法と、前方固定術(椎間板切除と骨棘切除し、椎体間を固定する)を中心とした前方除圧を目的とした前方進入法を行っている。</p>			
医療技術名	術中ナビゲーションを用いた脊椎手術(整形外科)	取扱患者数	21人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>リウマチや脳性麻痺患者などに生じた高度な頸椎不安定症に対し、固定力の強固な椎弓根や椎間関節スクリューを用いた後方固定術を行っているが、スクリュー刺入には危険を伴い高度な技術を要する。我々はより安全にスクリュー刺入を行うために、術中ナビゲーションを使用している。また、高度な靭帯骨化(後縦靭帯や黄色靭帯)の除圧操作においてもナビゲーションを用いてより正確により安全に手術操作を実施している。</p>			

医療技術名	内視鏡を用いた低侵襲脊椎手術(整形外科)	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 <p>腰椎椎間板ヘルニアに対し、我々は内視鏡を用いたヘルニア摘出術を行っている。従来のヘルニア手術に比べ侵襲が少なく、術後回復も早い。また、内視鏡を用いることで、より正確な手術操作が可能となる。</p>			
医療技術名	人工股関節(セメントレス)、骨盤骨切り(RAO)(整形外科)	取扱患者数	90人
当該医療技術の概要 <p>社会の高齢化に伴い、関節の退行変性による変形性股関節症症例が増加してきている。我々は、本症に対してセメントレス人工股関節を行っている。本邦では、二次性の変形性股関節症が多く、特に臼蓋形成不全によるものが、約80%を占める。臼蓋形成不全に対しては、骨盤回転骨切り(RAO)を行っている。</p>			
医療技術名	マイクロサージャリー、手関節鏡手術(整形外科)	取扱患者数	86人
当該医療技術の概要 <p>外傷による手指の神経、血管損傷、皮膚欠損に対して顕微鏡下での縫合術を行っている。手関節内の三角線維軟骨損傷や滑膜炎に対しては、手関節鏡視下に処置を行い、最小侵襲による確実な処置で早期の社会復帰を目指している。</p>			
医療技術名	前十字靭帯再建術(整形外科)	取扱患者数	93人
当該医療技術の概要 <p>近年、スポーツ活動が盛んになるに従い、膝関節の外傷も増加している。靭帯損傷の中でも前十字靭帯損傷は頻度が高く、放置すればスポーツ活動に支障をきたし変形性関節症も進行する。この前十字靭帯損傷に対し我々は小さな創で大きな可動域と安定性を獲得すべく半腱様筋、薄筋腱を用いた鏡視下靭帯再建術を行っている。</p>			
医療技術名	股関節鏡視下手術(整形外科)	取扱患者数	140人
当該医療技術の概要 <p>Femoroacetabular impingement syndromeと呼ばれる股関節における臼蓋と大腿骨頭～頸部にかけてのインピンジメントは変形性股関節症を惹起しうる病態と考えられている。これに対し股関節鏡視下にインピンジメントを解除するため、臼蓋および大腿骨頭部のトリミング、股関節唇の修復を行なっている。</p>			
医療技術名	肩関節鏡視下関節制動術(整形外科)	取扱患者数	57人
当該医療技術の概要 <p>反復性肩関節脱臼の患者は肩関節の関節唇が損傷され、また関節包が弛緩している。これらを鏡視下に修復することで関節の制動を獲得する手術を関節鏡視下に行っている。</p>			
医療技術名	肩関節鏡視下腱板修復術(整形外科)	取扱患者数	44人
当該医療技術の概要 <p>肩関節腱板損傷に対して従来はMcLaulin法などのOpenでの修復術が行われていたが、当院では肩関節周囲筋の侵襲を軽減でき、スムーズな後療法を実現するために関節鏡視下にアンカーを用いて修復術を行っている。 また、広範囲腱板断裂に対しては、下肢の靭帯、筋膜を用いパッチを作成し、関節包再建術を行っている。</p>			
医療技術名	脊椎靭帯骨化症に対する脊椎手術(整形外科)	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 <p>後縦靭帯骨化症や黄色靭帯骨化症は特定疾患に指定されている難病である。靭帯の骨化増大により脊柱管内が狭小化し脊髄圧迫をきたして運動機能が著しく損なわれている方には除圧術や骨化除去、骨化浮上などの手術的治療を行い脊髄機能、運動機能の改善に取り組んでいる。</p>			

医療技術名	脊椎腫瘍、脊髄腫瘍に対する手術(整形外科)	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 転移性脊椎腫瘍や原発性脊椎腫瘍に対して完全摘出を目的とした脊椎全摘出術や脊髄機能の回復を目的とした除圧固定術を行っている。また脊髄腫瘍に対しては顕微鏡視下に腫瘍摘出術を行っている。			
医療技術名	生体内吸収性プレートを用いた手の骨折手術(整形外科)	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 我々は、ハイドロキシアパタイトとポリL乳酸の複合体からなる生体内吸収性材料を用いて手の骨折を治療している。68度の温水に浸けると、この材料はやわらかくなり骨の彎曲によく適合させることができる。従来の金属製プレートと比べて、解剖学的に複雑な骨形状に、より対応可能であり、抜去手術が不要という利点がある。			
医療技術名	低圧持続吸引システムを用いた皮膚欠損を伴った手部外傷の手術(整形外科)	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 我々は、低圧持続吸引システムを用いて、皮膚欠損を伴った手部外傷を治療している。本システムは初期治療から用いることができ、肉芽形成を促進した上で、皮弁形成などの二期手術を行っている。			
医療技術名	突発性難聴(難病)の鼓室内ステロイド注入(耳鼻咽喉科)	取扱患者数	52人
当該医療技術の概要 突発性難聴は主に、一側性の急激な高度感音性難聴を来す疾患であり、時にめまいをともなう。その原因についていまだ定説はない。しかし、原因がいずれにしても内耳の酸素摂取量を増加させることは障害された内示の代謝の改善、組織の修復等に寄与すると考えられる。本院においては、上記疾患に対し、鼓室内ステロイド注入を施行して、好成績をおさめている。			
医療技術名	睡眠時無呼吸症候群の診断と治療(耳鼻咽喉科)	取扱患者数	125人
当該医療技術の概要 睡眠時無呼吸症候群は最近一層注目されてきた疾患である。当院では関連検査機器を整備して、この疾患の診断と治療を行っている。睡眠時無呼吸症候群の診断にあたってはその重症度と原因部位診断について留意して検査を行い加療の指針としている。			
医療技術名	選択的動注法による抗癌剤投与療法(耳鼻咽喉科)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 癌組織へ選択的に且つ高濃度の抗癌剤を投与する選択的動注法では、殺腫瘍効果の増強と副作用の軽減が期待できる。頭頸部領域では主に上顎癌や舌・口腔底癌において、この選択的動注法の使用が考えられる。本院においては、浅側頭動脈より逆行性にチューブを挿入し、上顎癌と舌癌においてこの選択的動注法を行っている。			
医療技術名	経頭蓋磁気刺激治療と上肢ロボット支援訓練の併用療法(リハビリテーション科)	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 維持期脳卒中患者に対し経頭蓋的に磁気刺激を行うことで、健側大脳の興奮性を抑え、障害側大脳の機能代償を増大させる。また、磁気治療に加えて上肢ロボット支援訓練を併用することで上肢の機能向上を図る。			
医療技術名	経頭蓋直流電気刺激下ロボット支援訓練(リハビリテーション科)	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 維持期脳卒中患者に対し、経頭蓋的に直流電気刺激を行った後、上肢ロボット支援訓練(アームトレーナー)を行い、麻痺側上肢の運動機能改善を図る。			
医療技術名	臍帯血移植(化学療法センター・血液科)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 治療抵抗性造血器腫瘍及び造血不全に対して、健全な臍帯血を移植することにて治療を目指す。			

医療技術名	末梢血幹細胞移植(化学療法センター・血液科)	取扱患者数	3人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>治療抵抗性造血器腫瘍及び造血不全に対して、末梢血より得られた造血幹細胞を移植することにて治療を目指す。</p>			
医療技術名	非血縁ドナー骨髄採取術(化学療法センター・血液科)	取扱患者数	8人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>治療抵抗性造血腫瘍や造血不良に対して、非血縁健常ドナーから骨髄を採取する。</p>			

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	101人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	62人	・広範脊柱管狭窄症	14人
・重症筋無力症	78人	・原発性胆汁性肝硬変	48人
・全身性エリテマトーデス	324人	・重症急性膵炎	21人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	24人
・再生不良性貧血	38人	・混合性結合組織病	52人
・サルコイドーシス	76人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	24人	・特発性間質性肺炎	24人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	220人	・網膜色素変性症	28人
・特発性血小板減少性紫斑病	45人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	46人	・肺動脈性肺高血圧症	2人
・潰瘍性大腸炎	127人	・神経線維腫症	9人
・大動脈炎症候群	18人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	4人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	21人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4人
・脊髄小脳変性症	43人	・ライソゾーム病	3人
・クローン病	68人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	89人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	209人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	11人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	6人
・後縦靭帯骨化症	59人	・肥大型心筋症	1人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	29人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	16人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	19人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	18人	・黄色靭帯骨化症	7人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	70人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1)	・小児入院医療管理料2
・特定機能病院入院基本料(精神病棟10対1)	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・臨床研修病院入院診療加算(医科)	・歯科外来環境体制加算
・臨床研修病院入院診療加算(歯科)	・歯科診療特別対応連携加算
・救急医療管理加算	・呼吸ケアチーム加算
・超急性期脳卒中加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・妊産婦緊急搬送入院加算	・
・診療録管理体制加算2	・
・急性期看護補助体制加算50対1	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算1	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・救急搬送患者地域連携受入加算	・
・データ提出加算2	・
・ハイケアユニット入院医療管理料	・
・総合周産期特定集中治療室管理料	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・時間内歩行試験
・高度難聴指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・喘息治療管理料	・皮下連続式グルコース測定
・糖尿病合併症管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・神経学的検査
・がん患者指導管理料1	・補聴器適合検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・コンタクトレンズ検査料1
・外来緩和ケア管理料	・内服・点滴誘発試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・センチネルリンパ節生検(単独)
・院内トリアージ実施料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・夜間休日緊急搬送医学管理料	・画像診断管理加算2
・外来放射線照射診療料	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ニコチン依存管理料	・CT透撮影及びMRI撮影
・地域連携診療計画管理料	・冠動脈CT撮影加算
・がん治療連携計画策定料	・心臓MRI撮影加算
・がん治療連携管理料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・外来化学療法加算1
・薬剤管理指導料	・無菌製剤処理料
・医療機器安全管理料1	・脳血管疾患等リハビリテーション料 I
・医療機器安全管理料2	・運動器リハビリテーション料 I
・医療機器安全管理料(歯科)	・呼吸器リハビリテーション I
・造血的遺伝子検査	・認知療法・認知行動療法1
・HPV核酸検出	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料
・検体検査管理加算IV	・医療保護入院等診療料
・遺伝カウンセリング加算	・透析水質確保加算1
・植込型心電図検査	・一酸化窒素吸入療法

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・CAD/CAM冠	・広範顎骨支持型装置埋込手術
・歯科技工加算	・麻酔管理料 I
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・麻酔管理料 II
・組織拡張器による再建手術	・放射線治療専任加算
・脳刺激装置植込術、頭蓋内電極植込術、脳刺激装置交換術	・外来放射線治療加算
・脊髄刺激装置植込術、脊髄刺激装置交換術	・高エネルギー放射線治療
・乳がんセンチネルリンパ節加算2	・強度変調放射線治療 (IMRT)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術	・画像誘導放射線治療 (IGRT)
・経皮的な中隔心筋焼却術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・直線加速器による定位放射線治療
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・病理診断管理加算2
・植込型徐細動器移植術及び植込型徐細動器交換術	・歯科矯正診断料
・両室ペーシング機能付き植込型徐細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型徐細動器交換術	・入院時食事療法 I
・大動脈バルーンパンピング法	・クラウンブリッジ維持管理料
・経皮的な大動脈遮断術	・腹腔鏡下肝切除術
・ダメージコントロール手術	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	
・体外衝撃波・尿管結石破碎術	
・膀胱水圧拡張術	
・人工尿道括約筋植込・置換術	
・輸血管理料1	
・輸血適正使用加算	
・自己生体組織接着剤作成術	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・歯周組織再生誘導手術	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ストレスに対するホメオサージャイナミクスと疾患制御	田中 良哉	第1内科学	8,800,000	補委 文部科学省科学研究費
膠原病疾患の組織リモデリングにおける上皮・血管内皮-間葉転換機構解明と治療展開	齋藤 和義	第1内科学	900,000	補委 学術研究助成基金助成金
膠原病治療をマスト細胞という新視点からブレークスルーする	澤向 範文	第1内科学	800,000	補委 学術研究助成基金助成金
臨床的、機能的、職業的寛解を目指した関節リウマチの治療アルゴリズムの確立	名和田 雅夫	第1内科学	900,000	補委 学術研究助成基金助成金
関節リウマチの関節破壊機序の解明と関節破壊「ゼロ」を目指す治療法確立に関する研究	田中 良哉	第1内科学	3,228,000	補委 厚生労働省科学研究費
免疫疾患に対する有効な治療法の確立に関する研究	田中 良哉	第1内科学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
免疫疾患におけるT細胞サブセットの機能異常とその修復法の開発	田中 良哉	第1内科学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
IgG4関連疾患に関する調査研究	田中 良哉	第1内科学	1,200,000	補委 厚生労働省科学研究費
難治性SLEに対するボルテゾミブ療法の有効性・安全性検証試験	田中 良哉	第1内科学	2,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
自己免疫疾患に関する調査研究	田中 良哉	第1内科学	3,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
ベーチェット病に関する調査研究	齋藤 和義	第1内科学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	田中 良哉	第1内科学	1,800,000	補委 厚生労働省科学研究費
日本人の人工弁置換術後における抗血小板療法の有効性および安全性に関する臨床研究	津田 有輝	第2内科学	892,350	補委 学術研究助成基金助成金
収縮中後期僧帽弁逸脱における左室・僧帽弁連関(乳頭筋の異常上方運動)の役割	尾辻 豊	第2内科学	1,079,060	補委 学術研究助成基金助成金
慢性心不全症例に対する運動負荷三次元心エコー図検査による評価の有用性	芳谷 英俊	第2内科学	1,172,757	補委 学術研究助成基金助成金

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
透析患者における薬剤溶出ステントの効果・再狭窄の原因及びその予知マーカーの検討	園田 信成	第2内科学	1,315,955	補 委 学術研究助成基金 助成金
老人性大動脈弁狭窄症における僧帽弁輪・弁尖への石灰化進展による僧帽弁狭窄の合併	竹内 正明	第2内科学	500,369	補 委 学術研究助成基金 助成金
冠動脈ステント留置後の新生内膜形成に及ぼす多価不飽和脂肪酸の効果	荒木 優	第2内科学	348,442	補 委 学術研究助成基金 助成金
MIA症候群における新しいバイオマーカーの探索;ペントラキシン3の可能性	宮本 哲	第2内科学	640,992	補 委 学術研究助成基金 助成金
STOPDAPT研究:エベロリムス溶出性コバルトクロムステント(XIENCE Prime)留置後のThienopyridine投与期間を3ヶ月に短縮することの安全性を評価する探索的研究	尾辻 豊	第2内科学	486,000	補 委 財団法人生産開発 科学研究所
蛋白・脂質代謝異常による小胞体ストレスを伴う肝細胞障害でのオートファジーの役割	原田 大	第3内科学	1,172,111	補 委 学術研究助成基金 助成金
手技のオートメーション化を目指した内視鏡ロボットの開発	久米恵一郎	第3内科学	1,090,904	補 委 学術研究助成基金 助成金
インテリジェント大腸内視鏡トレーニングモデルの開発	久米恵一郎	第3内科学	820,000	補 委 独立行政法人 科 学技術振興機構
一酸化窒素合成酵素完全欠損マウスを用いた下気道線毛運動機序の解明	川波 由紀子	呼吸器内科学	1,566,925	補 委 学術研究助成基金 助成金
特発性肺線維症におけるwnt/ β cateninの関与の解明	小田 桂士	呼吸器内科学	1,400,000	補 委 学術研究助成基金 助成金
非結核性抗酸菌症の気道病変に対する嫌気性菌群の役割の検討	川波 敏則	呼吸器内科学	1,600,000	補 委 学術研究助成基金 助成金
一酸化窒素合成酵素完全欠損マウスdねお胞隔炎及び気腫性変化の機序的検討	矢寺 和博	呼吸器内科学	1,399,999	補 委 学術研究助成基金 助成金
網羅的細菌叢解析を用いた細菌性肺炎における起因菌のエピデンスの構築	迎 寛	呼吸器内科学	1,100,000	補 委 学術研究助成基金 助成金
癌医療におけるグレリンの包括的QOL改善療法の開発研究	迎 寛	呼吸器内科学	1,000,000	補 委 厚生労働省科学研 究費
ヒト単球細胞やマウス腹腔マクロファージを用いたCNTの細胞影響評価	森本 泰夫	呼吸器内科学	4,200,000	補 委 技術研究組合単層 CNT融合新材料研 究開発機構 (TASC)

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
他者比較における自己評価:摂食障害を対象とした機能画像研究	兒玉 直樹	神経内科学	1,638,179	補委 学術研究助成基金助成金
近赤外光による疼痛関連領野同定法の開発とこれを用いた磁気刺激での疼痛治療	由比 友顕	神経内科学	1,699,999	補委 学術研究助成基金助成金
てんかんの有病率等に関する疫学研究及び診療実態の分析と治療体制の整備に関する研究	赤松 直樹	神経内科学	800,000	補委 厚生労働省科学研究費
視神経脊髄炎の再発に対するリツキシマブの有用性を検証するⅡ/Ⅲ相多施設共同プラセボ対照無作為化試験	岡田 和将	神経内科学	500,000	補委 厚生労働省科学研究費
遺伝子型検査を用いた薬物療法の個別適正化	赤松直樹	神経内科学	320,000	補委 独立行政法人 理化学研究所 横浜研究所 ゲノム医科学研究センター
せん妄の病態と治療に関する前向き研究の試み	中村 純	精神医学	1,000,000	補委 学術研究助成基金助成金
統合失調症患者の復職成功のカギは何か?	堀 輝	精神医学	1,100,000	補委 学術研究助成基金助成金
DNAメチル化修飾に着目したうつ病のマーカー作成一雙極、単極、治療抵抗性うつ病の鑑別を目指して	中村 純	精神医学	1,300,000	補委 厚生労働省科学研究費
うつ病患者に対する復職支援体制の確立 うつ病患者に対する社会復帰プログラムに関する研究	中村 純	精神医学	700,000	補委 厚生労働省科学研究費
PFAPA症候群の発熱発作予防におけるシメチジンの作用機序の解明	楠原 浩一	小児科学	1,100,000	補委 学術研究助成基金助成金
胎児期に起因する生活習慣病発症における脳末梢関連の異常と生後の栄養介入による予防	山本 幸代	小児科学	358,189	補委 学術研究助成基金助成金
非遺伝性周期性発熱症候群におけるバイオマーカーの検討と病態の解明	佐藤 哲司	小児科学	888,507	補委 学術研究助成基金助成金
ランゲルハウス細胞組織球症の病態解明と選択的治療へ向けた基礎的研究	本田 裕子	小児科学	328,539	補委 学術研究助成基金助成金
免疫低下を認める小児に対する肺炎球菌ワクチンおよびヒブワクチンの有効性の検討	保科 隆之	小児科学	1,180,383	補委 学術研究助成基金助成金
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	楠原 浩一	小児科学	1,600,000	補委 厚生労働省科学研究費

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
全ゲノムエクソン配列解析法による先天性内分泌疾患の分子基盤の解明	荒木 俊介	小児科学	600,000	補委 厚生労働省科学研究費
胃癌におけるイノシトール3リン酸(IP3)受容体発現と臨床的意義の検討	柴尾 和徳	第1外科学	1,076,906	補委 学術研究助成基金助成金
大腸癌における合成レチノイドの核内レセプター制御による分化誘導作用の解明	中山 善文	第1外科学	683,077	補委 学術研究助成基金助成金
がん登録からみたがん診療ガイドラインの普及効果に関する研究—診療動向と治療成績の変化—	山口 幸二	第1外科学	1,030,000	補委 厚生労働省科学研究費
悪性胸膜中皮腫における末梢血液中バイオマーカーの開発	田中 文啓	第2外科学	4,650,121	補委 文部科学省科学研究費
悪性胸膜中皮腫における診断および治療の標的となる腫瘍関連遺伝子の探索	竹中 賢	第2外科学	1,201,360	補委 学術研究助成基金助成金
マイクロ流体チップシステムによる肺癌での循環腫瘍細胞の高感度検出法の開発	岡 壮一	第2外科学	1,546,019	補委 学術研究助成基金助成金
胸部悪性腫瘍のEMT進行を実行するシグナル経路の同定と臨床標本での評価	下川 秀彦	第2外科学	1,500,000	補委 学術研究助成基金助成金
肺癌における循環腫瘍細胞の高感度検出法の確立	宗 知子	第2外科学	1,200,000	補委 学術研究助成基金助成金
循環腫瘍細胞を用いた多発肺癌と肺内転移の新たな鑑別システムの肺克	岩田 輝男	第2外科学	1,100,000	補委 学術研究助成基金助成金
EML4-ALK,EGFR-TKI耐性の分子機構の解明と低侵襲診断技術の確立	浦本 秀隆	第2外科学	1,500,000	補委 学術研究助成基金助成金
乳癌の上皮間葉移行における接着分子の意義およびその制御による新たな治療法の確立	永田 好香	第2外科学	1,100,000	補委 学術研究助成基金助成金
血液単球分画由来リボ核酸を使用した肺癌診断	田中 文啓	第2外科学	50,000	補委 学術研究助成基金助成金
呼吸器悪性腫瘍における自家がん特異的免疫応答を利用した新規腫瘍抗原の同定	浦本 秀隆	第2外科学	200,000	補委 学術研究助成基金助成金
呼吸器悪性腫瘍における自家がん特異的免疫応答を利用した新規腫瘍抗原の同定	重松 義紀	第2外科学	150,000	補委 学術研究助成基金助成金

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なもの
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
切除可能悪性胸膜中皮腫に対する集学的治療法の確立に関する研究	田中 文啓	第2外科学	800,000	補委 厚生労働省科学研究費
蛍光試薬5-アミノレブリン酸の放射線増感作用を悪性脳腫瘍治療へ応用する	山本 淳考	脳神経外科学	800,000	補委 学術研究助成基金助成金
低浸襲手術支援システムの実用化開発と臨床研究(低浸襲手術支援システムの脳神経外科領域における臨床研究)	西澤 茂	脳神経外科学	450,000	補委 独立行政法人 科学技術振興機構
荷重の増減による間葉系幹細胞から骨・血管・脂肪への分化調節機構の解明とその制御	酒井 昭典	整形外科	1,000,000	補委 文部科学省科学研究費
高リスク作業の支援に対応可能な高信頼拡張現実感技術の開発	中村 英一郎	整形外科	1,100,000	補委 文部科学省科学研究費
遺伝子改変動物を用いた疼痛ストレスにおける脳内生理活性物質の分子基盤の解明	川崎 展	整形外科	1,200,000	補委 学術研究助成基金助成金
自己炎症性疾患TRAPSモデルマウス作製と新規治療法の開発	中村 元信	皮膚科学	954,605	補委 学術研究助成基金助成金
自己炎症性疾患TRAPSの炎症誘発と病態の解明	大森 俊	皮膚科学	1,491,075	補委 学術研究助成基金助成金
悪性黒色腫における免疫抑制マーカーの探索的研究	吉岡 はるな	皮膚科学	106,076	補委 学術研究助成基金助成金
尋常性乾癬の病態形成における皮膚樹状細胞の機能解明	吉木 竜太郎	皮膚科学	1,489,911	補委 学術研究助成基金助成金
CCR5を軸とした悪性黒色腫の進展メカニズムの研究	日野 亮介	皮膚科学	1,367,444	補委 学術研究助成基金助成金
成人T細胞性白血病／リンパ腫における皮疹治療の統計学的検討と抗腫瘍効果	澤田 雄宇	皮膚科学	849,240	補委 学術研究助成基金助成金
非淋菌性尿道炎に関わる細菌およびウイルスの疫学、治療に関する総括的研究	松本 哲朗	泌尿器科学	3,353,223	補委 文部科学省科学研究費
性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究	松本 哲朗	泌尿器科学	500,000	補委 厚生労働省科学研究費
遺伝子変異の機能評価による家族性滲出性硝子体網膜症の多様性の解析	近藤 寛之	眼科学	1,500,000	補委 学術研究助成基金助成金

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なもの
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
緑内障と酸化ストレス	宮本 直哉	眼科学	700,000	補 委 学術研究助成基金 助成金
真珠腫上皮のバリア機能からみた 中耳真珠腫の骨吸収機序	鈴木 秀明	耳鼻咽喉科学	1,887,051	補 委 学術研究助成基金 助成金
嗅球バゾプレッシン細胞の分子生 理学的特性の解明	大淵 豊明	耳鼻咽喉科学	1,985,043	補 委 学術研究助成基金 助成金
レム関連睡眠時無呼吸の病態解 明と治療応用	北村 拓朗	耳鼻咽喉科学	2,529,232	補 委 学術研究助成基金 助成金
構造的転写共役因子を分子標的 とした婦人科悪性腫瘍治療と薬剤 耐性機構の解明	蜂須賀 徹	産婦人科学	1,800,000	補 委 学術研究助成基金 助成金
うつ病患者の遺伝子多型が脳微 細構造に及ぼす影響をMR統計画 像解析を用いて評価する	興梠 征典	放射線科学	2,300,000	補 委 学術研究助成基金 助成金
アプリケーション領域における要 素技術の評価 無症候性未破裂 脳動脈瘤の検出支援システムの 開発	興梠 征典	放射線科学	499,000	補 委 エヌ・ティ・ティ・データ (独立行政法人 新エ ネルギー・産業技術 総合開発機構からの 委託費)
外科侵襲による抗菌ペプチド産生 変化と白血球モジュレーションによ る制御法の開発	川崎 貴士	麻酔科学	423,240	補 委 学術研究助成基金 助成金
選択的Nav1.3阻害薬の開発を目 指した、電位依存Naチャンネルの抑 制機序解析	佐多 竹良	麻酔科学	1,497,788	補 委 学術研究助成基金 助成金
新しい神経障害性疼痛治療薬とし てのカリウムチャンネル開口薬の行 動薬理学的研究	原 幸治	麻酔科学	1,715,230	補 委 学術研究助成基金 助成金
ATP感受性カリウムチャンネル開口 薬の鎮痛作用に関する行動薬理 学的研究	原西 保典	麻酔科学	1,918,861	補 委 学術研究助成基金 助成金
神経障害性疼痛治療薬の開発を目 指した内因性カンナビノイドの 疼痛抑制機序の全貌解明	堀下 貴文	麻酔科学	1,399,822	補 委 学術研究助成基金 助成金
神経障害性疼痛に対するフリーラ ジカル消去薬の鎮痛作用および 予防効果に関する研究	中村 元洋	麻酔科学	202,125	補 委 学術研究助成基金 助成金
視床下部マイクログリアに焦点をあ てた熱射病の病態生理解明と治 療法の開発	川崎 知佳	麻酔科学	1,310,210	補 委 学術研究助成基金 助成金
鏡像運動を支援する簡易型上肢 訓練ロボットの多施設前向きラン ダム化比較試験	蜂須賀 研二	リハビリテーション医 学	6,950,599	補 委 文部科学省科学研 究費

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なもの
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
反復経頭蓋磁気刺激による失語症治療効果と脳活動パターン変化に関する検討	岡崎 哲也	リハビリテーション医学	1,000,002	補委 学術研究助成基金助成金
上肢訓練ロボットへの振動刺激による運動錯覚の応用	和田 太	リハビリテーション医学	496,934	補委 学術研究助成基金助成金
中大脳動脈領域の血管病変により生じる横隔膜麻痺と反射に関する研究	白石 純一郎	リハビリテーション医学	785,717	補委 学術研究助成基金助成金
非能動型新規上肢リハビリ訓練ロボットおよびその各種リハビリ手法との融合に関する研究	蜂須賀研二	リハビリテーション医学	40,000	補委 学術研究助成基金助成金
非能動型新規上肢リハビリ訓練ロボットおよびその各種リハビリ手法との融合に関する研究	和田 太	リハビリテーション医学	40,000	補委 学術研究助成基金助成金
ポリオ後症候群発症と酸化ストレスの関係	松嶋 康之	リハビリテーション医学	906,042	補委 学術研究助成基金助成金
高次脳機能障害者に対する経頭蓋直流電気刺激の自動車運転能力への効果	加藤 徳明	リハビリテーション医学	291,161	補委 学術研究助成基金助成金
脳梗塞後遺症に対する脳循環・代謝改善薬(ニセルゴリン)の気分障害への効果	伊藤 英明	リハビリテーション医学	874,034	補委 学術研究助成基金助成金
高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究	蜂須賀研二	リハビリテーション医学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
希少難治性神経疾患の疫学、病態解明、診断・治療法の開発に関する研究	蜂須賀研二	リハビリテーション医学	300,000	補委 厚生労働省科学研究費
スモンに関する調査研究(スモン患者の障害とQOLの検討)	蜂須賀研二	リハビリテーション医学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
歩行補助装置システムの性能評価・検証、および改良開発	和田 太	リハビリテーション医学	2,500,000	補委 北九州産業学術推進機構
強毒株クロストリディウム・デフィシル菌アウトブレイク防止体制構築についての研究	芳川 一郎	内視鏡部	11,499	補委 学術研究助成基金助成金
PHSRNペプチドによる腹膜再生機構の薬理的な解明と臨床応用	田村 雅仁	腎センター	1,328,434	補委 学術研究助成基金助成金
低酸素環境における口腔癌細胞の悪性化に関する研究	宮脇 昭彦	歯科・口腔外科	398,026	補委 学術研究助成基金助成金

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なもの
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計15 計105

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
口腔扁平上皮癌の低酸素環境におけるEMTの解明と治療標的としての意義	宮脇 昭彦	歯科・口腔外科	50,000	補委 学術研究助成基金助成金
HMGB-1が視床下部-下垂体においてパンプレリン産生・分泌におよぼす影響の解明	大坪 広樹	救急部	1,027,215	補委 学術研究助成基金助成金
血中ミネラル濃度が細胞外抗酸化防御機構に与える影響	亀崎 文彦	救急部	1,700,000	補委 学術研究助成基金助成金
肺線維症診断における気管支肺胞洗浄液の電子顕微鏡下粉じん解析の有用性	城戸 貴志	救急部	1,600,000	補委 学術研究助成基金助成金
難治性眼疾患に対する調査研究	真弓 俊彦	救急部	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
小児肥満発症の予防に向けた乳幼児期の体重増加に影響する周産期・遺伝的因子の解明	荒木 俊介	総合周産期母子医療センター	759,944	補委 学術研究助成基金助成金
関節リウマチにおける関節破壊を予測する新規マルチバイオマーカー創出に関する研究	平田 信太郎	病理・臨床検査・輸血部	2,000,000	補委 学術研究助成基金助成金
我が国における関節リウマチ治療の標準化に関する多層的研究	平田 信太郎	病理・臨床検査・輸血部	900,000	補委 厚生労働省科学研究費

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計8 計113

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Iwata, S	第1内科	Persistent memory B cell down-regulation after 6-year remission induced by rituximab therapy in patients with systemic lupus erythematosus.	Lupus 22(5): 538-540 (2013年4月)
2	Hanami, K	第1内科	Dopamine D2-like receptor signaling suppresses human osteoclastogenesis.	Bone 56(1):1-8 (2013年4月)
3	Tanaka, Y	第1内科	JAK inhibitor tofacitinib for treating rheumatoid arthritis: from basic to clinical.	Mod Rheumatol 23(3): 415-424 (2013年5月)
4	Kurozumi, A	第1内科	Efficacy of alpha-glucosidase inhibitors combined with dipeptidyl-peptidase-4 inhibitor (alogliptin) for glucose fluctuation in patients with type 2 diabetes mellitus by continuous glucose monitoring.	J Diabetes Investig 4(4):393-398 (2013年7月)
5	Torimoto, K	第1内科	Efficacy of combination of Ezetimibe 10 mg and rosuvastatin 2.5 mg versus rosuvastatin 5 mg monotherapy for hypercholesterolemia in patients with type 2 diabetes.	Lipids Health Dis 22:12:137-137 (2013年9月)
6	Kubo, S	第1内科	The JAK inhibitor, tofacitinib, reduces the T cell stimulatory capacity of human monocyte-derived dendritic cells.	Ann Rheum Dis Epub ahead of print (2013年9月)
7	Kurozumi, A	第1内科	Case of multiple endocrine neoplasia 2B with probable ectopic adrenocorticotrophic hormone-secreting liver metastasis from medullary thyroid carcinoma.	J UOEH 35(3):193-199 (2013年9月)
8	Tanaka, Y	第1内科	Long-term efficacy and safety of certolizumab pegol in Japanese rheumatoid arthritis patients with an inadequate response to methotrexate: 52-week results from an open-label extension of the J-RAPID study.	Mod Rheumatol Epub ahead of print (2013年9月)
9	Kurozumi, A	第1内科	Extrapyramidal symptoms and advanced calcification of the Basal Ganglia in a patient with autosomal dominant hypocalcemia.	Intern Med 52: 2077-2081 (2013年 10月)
10	Tanaka, Y	第1内科	Discontinuation of biologics in patients with rheumatoid arthritis.	Clin Exp Rheumatol 31(Suppl.78):S22-S27 (2013年10月)
11	Tanaka, Y	第1内科	Discontinuation of adalimumab after achieving remission in patients with established rheumatoid arthritis: 1-year outcome of the HONOR study.	Ann Rheum Dis 15(5):R135 (2013年11月)
12	Yukawa, S	第1内科	Dermal mast cell density in fingers reflects severity of skin sclerosis in systemic sclerosis.	Mod Rheumatol 23(6): 1151-1157 (2013年11月)
13	Tanaka, Y	第1内科	Prevention of joint destruction by tacrolimus in patients with early rheumatoid arthritis: a post hoc analysis of a double-blind, randomized, placebo-controlled study.	Mod Rheumatol 23(6): 1045-1052 (2013年11月)
14	Miyagawa, I	第1内科	Study on the safety and efficacy of tocilizumab, an anti-IL-6 receptor antibody, in patients with rheumatoid arthritis complicated with AA amyloidosis.	Mod Rheumatol 24(3):405-409 (2013年10月)
15	Kondo, M	第1内科	IL-17 inhibits chondrogenic differentiation of human mesenchymal stem cells.	PLoS One 8(11):e79463 (2013年11月)
16	Tanaka, Y	第1内科	Effect of interleukin-6 receptor inhibitor, tocilizumab, in preventing joint destruction in patients with rheumatoid arthritis showing inadequate response to TNF inhibitors.	Mod Rheumatol 24(3):399-404 (2013年11月)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
17	Fukuyo, S	第1内科	Efficacy and safety of reducing duration of infliximab infusion.	Mod Rheumatol 24(2):275-280 (2013年11月)
18	Yamaoka, K	第1内科	Effectiveness and safety of tocilizumab: postmarketing surveillance of 7901 patients with rheumatoid arthritis in Japan.	Expert Opin Pharmacother 15(1):103-113 (2013年11月)
19	Tanaka, Y	第1内科	Is it possible to withdraw biologics from therapy in rheumatoid arthritis?	Clin Ther 35(12):2028-2035 (2013年12月)
20	Kubo, S	第1内科	Abatacept inhibits radiographic progression in patients with rheumatoid arthritis: a retrospective analysis of 6 months of abatacept treatment in routine clinical practice. The ALTAIR study.	Mod Rheumatol 24(1):42-51 (2014年1月)
21	Sonomoto, K	第1内科	Effects of tofacitinib on lymphocytes in rheumatoid arthritis: relation to efficacy and infectious adverse events.	Rheumatology (Oxford) 53(5):914-918 (2014年1月)
22	Torimoto, K	第1内科	Glucose variability before and after treatment of a patient with Graves' disease complicated by diabetes mellitus: Assessment by continuous glucose monitoring.	Endocr J 61(4):321-328 (2014年1月)
23	Tanaka, Y	第1内科	Long-term efficacy and safety of certolizumab pegol in Japanese rheumatoid arthritis patients who could not receive methotrexate: 52-week results from an open-label extension of the HIKARI study.	Mod Rheumatol Epub ahead of print (2014年1月)
24	Hajime, M	第1内科	A case of teriparatide-induced severe hypophosphatemia and hypercalcemia.	J Bone Miner Metab Epub ahead of print (2014年2月)
25	Fukuyo, S	第1内科	IL-6-accelerated calcification by induction of ROR2 in human adipose tissue-derived mesenchymal stem cells is STAT3 dependent.	Rheumatology (Oxford) Epub ahead of print (2014年3月)
26	Haruki, N	第2内科	Immediate amelioration of mechanical pulsus alternans by adaptive servo-ventilation therapy	Heart Lung Circ. 22(4):300-302 (2013年4月)
27	Shibata, K	第2内科	Nitric oxide synthases and heart failure - lessons from genetically manipulated mice.	J UOEH 35(2):147-158 (2013年6月)
28	Honma, Y	第3内科	Sorafenib enhances proteasome inhibitor-mediated cytotoxicity via inhibition of unfolded protein response and keratin phosphorylation.	Exp Cell Res 319(14):2166-2178 (2013年8月)
29	Kaku, K	第2内科	Age-related normal range of left ventricular strain and torsion using three-dimensional speckle-tracking echocardiography.	J Am Soc Echocardiogr Epub ahead of print (2013年11月)
30	Otsuji, K	第2内科	A rare case of myocardial infarction related to diagnostic intravascular ultrasound	Heart Vessels 28(6):808-813 (2013年11月)
31	Harada, M	第3内科	Pathogenesis and management of Wilson disease.	Hepato Res Epub ahead of print (2014年1月)
32	Honma, Y	第3内科	Sorafenib enhances proteasome inhibitor-induced cell death via inactivation of Akt and stress-activated protein kinases.	J Gastroenterol 49(3):517-526 (2014年3月)
33	Yamasaki, K	呼吸器科	Significance of anaerobes and oral bacteria in community-acquired pneumonia.	PLoS One 8(5):e63103 (2013年5月)
34	Noguchi, S	呼吸器科	Pulmonary mucosa-associated lymphoid tissue (MALT) lymphoma with multiple thin-walled pulmonary cysts: a case report and review of the literature.	Intern Med 52(20):2325-2329 (2013年10月)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
35	Ogoshi, T	呼吸器科	Assessment of pathologically diagnosed patients with Castleman's disease associated with diffuse parenchymal lung involvement using the diagnostic criteria for IgG4-related disease.	Lung 91(6):575-583 (2013年12月)
36	Yamasaki, K	呼吸器科	Incidence and outcomes of bepridil-induced interstitial pneumonia.	Respir Med 107(12):2088-2091 (2013年12月)
37	Oda, K	呼吸器科	High-resolution CT scoring system-based grading scale predicts the clinical outcomes in patients with idiopathic pulmonary fibrosis.	Respir Res 15:10-10 (2014年1月)
38	Noguchi, S	呼吸器科	Pneumonia and empyema caused by Streptococcus intermedius that shows the diagnostic importance of evaluating the microbiota in the lower respiratory tract.	Intern Med 53(1):47-50 (2014年1月)
39	Akata, K	呼吸器科	Disseminated pulmonary penicilliosis in a rheumatoid arthritis patient.	J Thorac Imaging 29(2):W14-16 (2014年3月)
40	Tanaka, A	神経内科	A more realistic approach, using dynamic stimuli, to test facial emotion recognition impairment in temporal lobe epilepsy.	Epilepsy Behav 28(1):12-16 (2013年6月)
41	Tanaka, A	神経内科	Clinical characteristics and treatment responses in new-onset epilepsy in the elderly.	Seizure 22(9):772-775 (2013年11月)
42	Toyota, T	神経内科	Electroencephalographic features of benign adult familial myoclonic epilepsy.	Clin Neurophysiol 125(2):250-254 (2014年2月)
43	Takechi, U	神経内科	Longitudinal changes of motor cortical excitability and transcallosal inhibition after subcortical stroke.	Clin Neurophysiol Epub ahead of print (2014年2月)
44	Tokutsu, Y	精神科	Follow-up Study on Electroconvulsive Therapy in Treatment-resistant Depressed Patients after Remission: A Chart Review.	Clin Psychopharmacol Neurosci 11(1):34-38 (2013年4月)
45	Yoshimura, R	精神科	Plasma levels of interleukin-6 and selective serotonin reuptake inhibitor response in patients with major depressive disorder.	Hum Psychopharmacol 28(5):466-470 (2013年9月)
46	Nakano, W	精神科	Current smoking rate in patients with psychiatric disorders in Japan: questionnaire survey.	Psychiatry Res 210(1):268-273 (2013年11月)
47	Hori, H	精神科	Switching to antipsychotic monotherapy can improve attention and processing speed, and social activity in chronic schizophrenia patients.	J Psychiatr Res 47(12):1843-1848 (2013年12月)
48	Yoshimura, R	精神科	Serum Levels of Brain-Derived Neurotrophic Factor at 4 Weeks and Response to Treatment with SSRIs.	Psychiatry Investig 11(1):84-88 (2014年1月)
49	Hori, H	精神科	Effect of blonanserin on cognitive and social function in acute phase Japanese schizophrenia compared with risperidone	Neuropsychiatric Dis Treat 10:527-533 (2014年 3月)
50	Sato, T	小児科	Bernard-Soulier syndrome due to compound heterozygosity for a novel glycoprotein Ibbeta mutation	Acta Haematol 131(1):46-49 (2013年9月)
51	Araki, S	小児科	Decreased plasma levels of brain-derived neurotrophic factor and its relationship with obesity and birth weight in obese Japanese children.	Obes Res Clin Pract 8(1):e63-69 (2014年2月)
52	Saito, R	小児科	Tamoxifen treatment for pubertal gynecomastia in two siblings with partial androgen insensitivity syndrome.	Horm Res Paediatr 81(3):211-216 (2014年2月)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
53	Sato N	第1外科	Routine intraoperative cholangiography during single-incision laparoscopic cholecystectomy: a review of 196 consecutive patients	J Gastrointest Surg. 17(4):668-674 (2013年4月)
54	Torigoe, T	第1外科	Laparoscopic colectomy for transverse colon cancer in an automated peritoneal dialysis patient: A case report.	Int J Surg Case Rep 4(7):640-642 (2013年5月)
55	Shibao K	第1外科	Laparoendoscopic single-site common bile duct exploration using the manual manipulator	Surg Endosc 27(8):3009-3015 (2013年8月)
56	Shibao K	第1外科	A newly developed oval-shaped port device (E-Z ACCESS Oval type) for use in reduced port surgery: initial clinical experiences with cholecystectomy	Surg Technol Int 23:75-79 (2013年9月)
57	Yamaguchi K	第1外科	Sarcoidosis in a patient with a circumportal pancreas with a retroportal main pancreatic duct: a case report.	Pancreas 42(7):1197-1199 (2013年10月)
58	Sato, N	第1外科	Stapled gastro/duodenojejunostomy shortens reconstruction time during pylorus-preserving pancreaticoduodenectomy.	World J Gastroenterol 19(48):9399-9404 (2013年12月)
59	Mori, Y	第1外科	Pancreatic somatostatinoma diagnosed preoperatively: report of a case.	JOP 15(1):66-71 (2014年1月)
60	Sato, N	第1外科	Risk factors for a prolonged operative time in a single-incision laparoscopic cholecystectomy.	HPB (Oxford) 16(2):177-182 (2014年2月)
61	Hanagiri, T	第2外科	Clinical significance of expression of cancer/testis antigen and down-regulation of HLA class-I in patients with stage I non-small cell lung cancer.	Anticancer Res 33(5):2123-2128 (2013年5月)
62	Uramoto, H	第2外科	Angiogenesis of lung cancer utilizes existing blood vessels rather than developing new vessels using signals from carcinogenesis.	Anticancer Res 33(5):1913-1916 (2013年5月)
63	Hanagiri, T	第2外科	Clinical significance of the frequency of regulatory T cells in regional lymph node lymphocytes as a prognostic factor for non-small-cell lung cancer.	Lung Cancer 81(3):475-479 (2013年9月)
64	Iwanami, T	第2外科	Clinical significance of epithelial-mesenchymal transition-associated markers in malignant pleural mesothelioma.	Oncology 86(2):109-116 (2014年1月)
65	Shinohara, S	第2外科	Evaluation of undiagnosed solitary lung nodules according to the probability of malignancy in the American College of Chest Physicians (ACCP) evidence-based clinical practice guidelines.	Radiol Oncol 48(1):50-55 (2014年1月)
66	Uramoto, H	第2外科	Factors predicting the surgical outcome in patients with T3/4 lung cancer.	Surg Today Epub ahead of print (2014年2月)
67	Uramoto, H	第2外科	Postoperative bleeding after surgery in patients with lung cancer.	Anticancer Res 34(2):981-984 (2014年2月)
68	Uramoto, H	第2外科	Salvage thoracic surgery in patients with primary lung cancer.	Lung Cancer 84(2):151-155 (2014年2月)
69	Yamamoto, J	脳神経外科	Severe subarachnoid hemorrhage associated with cerebral venous thrombosis in early pregnancy: a case report.	J Emerg Med 45(6):849-855 (2013年9月)
70	Yamamoto, J	脳神経外科	Intratumoral hemorrhage because of primary spinal mixed germ cell tumor presenting with atypical radiological features in an adult.	Spine J 13(10):e31-38 (2013年10月)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
71	Takahashi, M	脳神経外科	Multiple intracranial nodules associated with rheumatoid arthritis: case report.	Neurol Med Chir (Tokyo) 54(4):317-320 (2013年10月)
72	Yamamoto, J	脳神経外科	Pitfalls of conservative treatments of multiple probable cerebral cavernous malformations (CCMs): clinicopathological features of CCMs coexisting with vasculogenic mimicry in an anaplastic oligodendroglioma.	Brain Tumor Pathol Epub ahead of print (2013年12月)
73	Nakamura, T	整形外科	Clinical efficacy on fracture risk and safety of 0.5 mg or 1 mg/month intravenous ibandronate versus 2.5 mg/day oral risedronate in patients with primary osteoporosis.	Calcif Tissue Int 93(2):137-146 (2013年8月)
74	Sakai, A	整形外科	More radial shortening after low-energy Colles' fractures is associated with type 2 diabetes mellitus among postmenopausal women, irrespective of bone mineral density.	J Orthop Sci 18(5):811-818 (2013年9月)
75	Furukawa, K	整形外科	Post-traumatic malunion of the distal radial intra-articular fractures treated with autologous costal osteochondral grafts and bioabsorbable plates.	Tech Hand Up Extrem Surg 18(1):15-19 (2014年3月)
76	Mori, T	皮膚科	D1-like dopamine receptors antagonist inhibits cutaneous immune reactions mediated by Th2 and mast cells.	J Dermatol Sci 71(1):37-44 (2013年7月)
77	Sawada, Y	皮膚科	Defective epidermal induction of S100A7/psoriasin associated with low frequencies of skin-infiltrating Th17 cells in dermatophytosis-prone adult T cell leukemia/lymphoma	Clin Immunol 148(1):1-3 (2013年7月)
78	Watabe, R	皮膚科	Expression of activation-induced cytidine deaminase in Merkel cell carcinoma with lymph-node metastasis.	Eur J Dermatol 23(4):539-540 (2013年7月)
79	Yoshizawa, M	皮膚科	A novel mutation, c.699C>G (p.C233W), in the LIPH gene leads to a loss of the hydrolytic activity and the LPA6 activation ability of PA-PLA1alpha in autosomal recessive wooly hair/hypotrichosis.	J Dermatol Sci 72(1):61-64 (2013年10月)
80	Sugita, K	皮膚科	Prostaglandin E(2) is critical for the development of niacin-deficiency-induced photosensitivity via ROS production.	Sci Rep 3:2973-2973 (2013年10月)
81	Yamaguchi, T	皮膚科	Expression of activation-induced cytidine deaminase in Bowenoid papulosis.	Eur J Dermatol 23(5):729-730 (2013年10月)
82	Yamaguchi, T	皮膚科	Galectin-7, induced by cis-urocanic acid and ultraviolet B irradiation, down-modulates cytokine production by T lymphocytes.	Exp Dermatol 22(12):840-842 (2013年12月)
83	Sawada, Y	皮膚科	Decreased expression of acetylcholine esterase in cholinergic urticaria with hypohidrosis or anhidrosis.	J Invest Dermatol 134(1):276-279 (2014年1月)
84	Yoshiki, R	皮膚科	IL-23 from Langerhans Cells Is Required for the Development of Imiquimod-Induced Psoriasis-Like Dermatitis by Induction of IL-17A-Producing gamma delta T Cells.	J Invest Dermatol 134(7):1912-1921 (2014年2月)
85	Sugita, K	皮膚科	Influence of Th2 cells on hair cycle/growth after repeated cutaneous application of hapten.	Clin Exp Dermatol 39(2):213-215 (2014年3月)
86	Hamasuna, R	泌尿器科	Mycoplasma genitalium in male urethritis: diagnosis and treatment in Japan.	Int J Urol 20(7):676-684 (2013年7月)
87	Sho, T	泌尿器科	The mechanism of high-level carbapenem resistance in Klebsiella pneumoniae: underlying OmpK36-deficient strains represent a threat of emerging high-level carbapenem-resistant K. pneumoniae with IMP-1 beta-lactamase production in Japan	Microb Drug Resis 19(4):274-281 (2013年8月)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
88	Fujimoto, N	泌尿器科	Polymorphisms of the androgen transporting gene SLCO2B1 may influence the castration resistance of prostate cancer and the racial differences in response to androgen deprivation.	Prostate Cancer Prostatic Dis 16(4):336-340 (2013年12月)
89	Tawara, A	眼科	Reconstruction of a nonfunctional trabeculectomy bleb using an amniotic membrane-wrapped silicone sponge to treat refractory glaucoma.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 251(8):2013-2018 (2013年8月)
90	Kondo, H	眼科	Familial acorea, microphthalmia and cataract syndrome.	Br J Ophthalmol 97(9):1155-1160 (2013年9月)
91	Nagata, T	眼科	The effects of a convex rear-view mirror on ocular accommodative responses.	Appl Ergon 44(6):1039-1043 (2013年11月)
92	Ohbuchi, T	耳鼻咽喉科	Identification of pannexins in rat nasal mucosa.	Allergy Rhinol (Providence) 4(2):e63-65 (2013年7月)
93	Ohkubo, J	耳鼻咽喉科	Electrophysiological effects of kainic Acid on vasopressin-enhanced green fluorescent protein and oxytocin-monomeric red fluorescent protein 1 neurones isolated from the supraoptic nucleus in transgenic rats.	J Neuroendocrinol 26(1):43-51 (2014年1月)
94	Ohbuchi, T	耳鼻咽喉科	Possible contribution of pannexin-1 to ATP release in human upper airway epithelia.	Physiol Rep 2(2):e00227 (2014年2月)
95	Kakeda, S	放射線科	Parkinson's disease: diagnostic potential of high-resolution phase difference enhanced MR imaging at 3 T.	Eur Radiol 23(4):1102-1111 (2013年4月)
96	Yamaguchi, S	放射線科	Palliative radiotherapy in patients with a poor performance status: the palliative effect is correlated with prolongation of the survival time.	Radiat Oncol 5;8(1):166 (2013年7月)
97	Chihara, C	放射線科	Ecchordosis physaliphora and its variants: proposed new classification based on high-resolution fast MR imaging employing steady-state acquisition.	Eur Radiol 23(10):2854-2860 (2013年10月)
98	Yamaguchi, S	放射線科	Stereotactic body radiotherapy for lung tumors in patients with subclinical interstitial lung disease: the potential risk of extensive radiation pneumonitis.	Lung Cancer 82(2):260-265 (2013年11月)
99	Oki, H	放射線科	DWI findings of autoimmune pancreatitis: Comparison between symptomatic and asymptomatic patients.	J Magn Reson Imaging Epub ahead of print (2013年11月)
100	Aoki, T	放射線科	Tomosynthesis of the wrist and hand in patients with rheumatoid arthritis: comparison with radiography and MRI.	AJR Am J Roentgenol 202(2):386-390 (2014年2月)
101	Sho, T	産婦人科	Expression of estrogen receptor-alpha as a prognostic factor in patients with uterine serous carcinoma.	Int J Gynecol Cancer 24(1):102-106 (2014年1月)
102	Hayashida, Y	放射線科	Diagnosis of intracranial hemorrhagic lesions: comparison between 3D-SWAN (3D T2*-weighted imaging with multi-echo acquisition) and 2D-T2*-weighted imaging.	Acta Radiol 55(2):201-207 (2014年3月)
103	Urabe, R	産婦人科	Prognostic significance of overexpression of p53 in uterine endometrioid adenocarcinomas with an analysis of nuclear grade.	J Obstet Gynaecol Res 40(3):812-819 (2014年3月)
104	Kawasaki, T	麻酔科	Dexmedetomidine suppresses proinflammatory mediator production in human whole blood in vitro.	J Trauma Acute Care Surg 74(5):1370-1375 (2013年5月)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
105	Kawasaki, T.	麻酔科	Trauma-hemorrhage and dendritic cell functions: a critical review of splenic dendritic cell dysfunction following trauma-hemorrhage and therapeutic approach.	OA Anaesthetics, London 1(2):15 (2013年9月)
106	Hara, K	麻酔科	Chlorogenic acid administered intrathecally alleviates mechanical and cold hyperalgesia in a rat neuropathic pain model.	Eur J Pharmacol 723:459-464 (2014年1月)
107	Harayama, N	麻酔科	Comparison of nifekalant and amiodarone for resuscitation of out-of-hospital cardiopulmonary arrest resulting from shock-resistant ventricular fibrillation.	J Anesth Epub ahead of print (2014年1月)
108	Ookura, D	麻酔科	The endocannabinoid anandamide inhibits voltage-gated sodium channels Nav1.2, Nav1.6, Nav1.7, and Nav1.8 in <i>Xenopus</i> oocytes.	Anesth Analg 118(3):554-562 (2014年3月)
109	Kato, N	リハビリテーション科	Did the educational campaign to support persons with cognitive dysfunction encourage them to participate in society in Northern Kyushu, Japan?	Brain Inj 27(12):1423-1427 (2013年10月)
110	Ishida, T	歯科・口腔外科	Notch signaling induces EMT in OSCC cell lines in a hypoxic environment	Oncol Lett. 6(5):1201-1206 (2013年11月)
111	Kamezaki, F	救急部	Association of seasonal variation in the prevalence of metabolic syndrome with insulin resistance	Hypertension Research 36(5):398-402 (2013年5月)
112	Mayumi, T	救急部	Progression of Tokyo Guidelines and Japanese Guidelines for management of acute cholangitis and cholecystitis.	J UOEH 35(4):249-257 (2013年12月)
113	Nakano, W	救急部	No significant association between brain-derived neurotrophic factor gene rs6265 and cognitive function in Japanese patients with schizophrenia.	Psychiatry Res 215(3):803-805 (2014年3月)
114	Kubota, F	病理・臨床検査・輸血部	Desmin-positivity in spindle cells: under-recognized immunophenotype of lipoblastoma	Pathol Int. 63(7):353-357 (2013年7月)
115	Matsuyama, A	病理・臨床検査・輸血部	Intraosseous leiomyosarcoma arising in the epiphysis of the distal femur.	Pathol Res Pract 209(8):530-533 (2013年8月)
116	Yukawa, S	病理・臨床検査・輸血部	Mitral stenosis reversed by medical treatment for heart failure	Ann Thorac Surg. 96(5):e115-117 (2013年11月)

計116件

(注)

当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年中での業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	元 舞子	第1内科	高齢2型糖尿病患者におけるメトホルミンの有用性	産業医大誌 35巻3号:207-212 (2013年9月)
2	原田 大	第3内科	培養肝癌細胞への分子標的薬の影響	犬山シンポ 29回:167-172 (2013年6月)
3	長田 周也	呼吸器科	Functional Living Index-Emesis(FLIE)調査票を用いたCarboplatin併用肺癌化学療法におけるAprepitantの制吐効果の検討	癌と治療 41巻3号 :335-339 (2014年3月)
4	山崎 啓	呼吸器科	医療・介護関連肺炎に対するモキシフロキサシンの有効性と安全性に関する検討	Jpn J Antibiot 66巻5号:283-292 (2013年10月)
5	西田千夏	呼吸器科	医療・介護関連肺炎におけるガレノキサシンの有効性・安全性に関する検討	新薬と臨 62巻4号:701-709 (2013年4月)
6	内藤圭祐	呼吸器科	シアナミドによる薬剤性肺障害の1例	呼吸 32巻7号:646-647 (2013年7月)
7	長神康雄	呼吸器科	清掃作業中の塩素ガス吸入曝露により急性呼吸不全を来した1例	日胸臨 72巻7号:792-798 (2013年7月)
8	野口真吾	呼吸器科	気管周囲に局限した縦隔原発リンパ形質細胞性リンパ腫の1例	産業医大誌 35巻3号:213-218 (2013年9月)
9	立和田隆	呼吸器科	門脈肺高血圧症の1例	呼吸 32巻8号:734-735 (2013年8月)
10	鈴木雄	呼吸器科	FDG-PETが診断に有用であった悪性胸膜中皮腫の2例	日胸臨 72巻7号:806-812 (2013年7月)
11	渡橋剛	呼吸器科	特発性器質化肺炎の発症を契機に発見された右上葉支の中葉支内転位の1例	気管支学 35巻3号:291-295 (2013年5月)
12	山崎 啓	呼吸器科	医療・介護関連肺炎に対するレボフロキサシンの有効性と安全性に関する検討	Jpn J Antibiot 67巻1号:23-32 (2014年2月)
13	石本裕士	呼吸器科	高度な嚢胞性変化を伴った上葉優位型肺線維症類似の慢性間質性肺炎に肺アスペルギルス症を併発し血清IgG4が高値であった1例	Ther Res 34巻6号:761-762 (2013年6月)
14	加藤香織	呼吸器科	慢性壊死性肺アスペルギルス症に合併したActinomyces naeslundiiによる肺放線菌症の1例	日呼吸誌 2巻6号:751-755 (2013年11月)
15	荒木 俊介	小児科	抗VEGF療法を必要とした重症未熟児網膜症の検討	日周産期・新生児会誌 49巻3号 :1064-1068 (2013年9月)
16	荒木 俊介	小児科	小児糖尿病患児における骨強度の検討	Diabetes Frontier 24(3):341-345 (2013年6月)
17	高橋 麻由	脳神経外科	Hypothalamus/optic pathway発生神経膠腫に対する集学的治療と予後	日内分泌会誌 89巻 :71-73 (2013年8月)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
18	松本 英彦	整形外科	成長期サッカー選手におけるメディカルチェック所見と鼠径部痛における調査	日臨スポーツ医学会誌 21巻3号:752-755 (2013年8月)
19	中島 大毅	皮膚科	地域発症率からみた好酸球性膿疱性毛包炎における衛生仮説の検証	産業医大誌 35巻3号:201-205 (2013年9月)
20	厚井 志郎	第1外科	閉鎖孔ヘルニア13例の検討	産業医大誌 35巻4号:273-277 (2013年12月)
21	村谷 哲郎	泌尿器科	緑膿菌を対象とした耐性および多剤耐性の定義の違いによる比較	緑膿菌感染研究会講記録 47回:139-143 (2013年12月)
22	高橋 里沙	耳鼻咽喉科	閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する鼻中隔矯正術および下鼻甲介切除術の効果	日耳鼻会報 116巻7号:789-792 (2013年7月)
23	濱田 高太郎	麻酔科	肺手術中に顔面紅潮、血圧低下、心拍数増加を来した6症例	麻酔 62巻8号:949-951 (2013年8月)
24	岡崎 哲也	リハビリテーション科	高次脳機能障害に使用される簡易な神経心理学的検査の青年標準値 Mini-Mental State Examination、Trail Making Test、Wisconsin Card Sorting Testパソコン版、三宅式記銘力検査	Jpn J Rehabil Med 50巻12号:962-970 (2013年12月)
25	平島 惣一	歯科・口腔外科	産業医科大学病院の周術期口腔機能管理の特徴と問題点について	九州歯会誌 67巻5号:140-145 (2013年10月)
26	関 洋之	病理・臨床検査・輸血部	微生物検査自動塗抹装置PREVI Isolaの喀痰からの起炎菌分離能力の検討	Sysmex J 36巻1号:27-35 (2013年11月)
27	中元 洋子	リハビリテーション部	産業医科大学病院における脳卒中急性期リハビリテーションの実施状況 2000年と2010年の比較	産業医大誌 35巻3号:219-223 (2013年9月)

(注)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 I 基本事項 II 疫学研究及び臨床研究に係る研究者等が遵守すべき事項 1 研究者等が遵守すべき事項 2 学長の責務 3 倫理委員会の運営 4 研究等において予期しない重篤な有害事象及び不具合が発生した場合の対応について III 倫理委員会における倫理審査申請書等の提出及び審査の手順	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年中業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 産学連携活動に伴い発生する利益相反を適切に管理することを目的とした規定を整備している。規定では「管理すべき利益相反」状況を判断する基準を指針として示すとともに、産学連携活動を適切に推進するため利益相反委員会を設置し、教職員等に対して利益相反に該当する事例が発生又は発生が予測され、学校法人活動に悪影響を与えられるときは当該事例を委員会に報告することを義務付けている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年11回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年中業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
<p>・研修の主な内容</p> <p>① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況： 平成25年度：開催なし（臨床研究に関する倫理指針の改正が行われる際に開催する予定であったが、改正時期がずれ込んだため） 平成26年度：2回（6月25日、7月15日開催、10～11月にも開催予定）</p> <p>・研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 世界医師会(WMA)ヘルシンキ宣言(2013年10月改訂)の要点(2) 臨床研究及び疫学研究に関する倫理指針(3) 研究倫理指針違反(4) 研究活動における不正行為防止(5) 臨床研究実施計画書の作成	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

産業医科大学病院の診療科等に所属して行う臨床修練及び産業医実務研修

- a 産業医科大学病院における臨床修練（必修）
- b 臨床修練の一部を産業医科大学若松病院、労災病院等における臨床修練又は事業場、労働衛生機関等における産業医修練、或いはその両方の修練にかえることができる。（ただし、期間は別に定める。）（選択）
- c 産業医学基本講座の受講（必修）
- d 産業医学実務講座の受講（必修）

2 研修の実績

研修医の人数	169人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	診療科長	29年	
尾辻 豊	循環器内科、腎臓内科	診療科長	32年	
原田 大	消化管内科、肝臓膵内科	診療科長	26年	
迎 寛	呼吸器内科	診療科長	28年	
足立 弘明	神経内科、心療内科	診療科長	22年	
中村 純	神経・精神科	診療科長	38年	
楠原 浩一	小児科	診療科長	30年	
日暮 愛一郎	消化器・内分泌外科	副診療科長	26年	
田中 文啓	呼吸器・胸部外科	診療科長	27年	
西村 陽介	心臓血管外科	診療科長	27年	
西澤 茂	脳神経外科	診療科長	35年	
酒井 昭典	整形外科	診療科長	27年	
中村 元信	皮膚科	診療科長	22年	
安田 浩	形成外科	診療科長	29年	
藤本 直浩	泌尿器科	副診療科長	29年	
近藤 寛之	眼科	診療科長	25年	
鈴木 秀明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	診療科長	30年	
蜂須賀 徹	産婦人科	診療科長	35年	
興梠 征典	放射線科	診療科長	32年	
佐多 竹良	麻酔科	診療科長	37年	
和田 太	リハビリテーション科	副診療科長	24年	
久岡 正典	病理診断科	診療科長	25年	
真弓 俊彦	救急科	診療科長	28年	
蒲地 正幸	集中治療部	部長	28年	
塚田 順一	化学療法センター・血液科	診療科長	29年	
蜂須賀 徹	総合周産期母子医療センター	センター長	35年	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 合同がんサージカルボード
・研修の期間・実施回数 3回（H25.7.17、H25.11.20、H26.3.26）
・研修の参加人数 （H25.7.17）68人、（H25.11.20）76人、（H26.3.26）45人
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 採用時医療安全研修 ・個人情報保護 ・感染防止に関わる病院職員の心得 ・当院の医療安全対策の基本
・研修の期間・実施回数 平成25年4月～平成26年3月 12回
・研修の参加人数 ・平成25年4月：227名、5月：7名、6月：6名、7月：6名、 8月：8名、9月：4名、10月：20名、11月：10名、12月：4名 1月：14名、2月：5名、3月：10名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
《外部新人看護職員研修》 ・研修の主な内容：「看護倫理」「接遇」「バイタルサイン」「フィジカルアセスメント」「看護記録」「医療安全」「感染対策」などの講義、「注射技術・輸液の準備、筋肉注射」「輸血」「ME機器の取り扱い」「BLS」などの演習、「看護のリフレクション」のグループワーク ・研修の期間・実施回数：平成25年7月29日（月）～8月2日（金）40時間 ・10月25日（金）4時間 ・研修の参加人数：18名
《認定看護師セミナー》 ・研修の主な内容と期間・参加人数：「9月7日緩和ケア」45名、「9月28日糖尿病看護」40名、「10月5日がん放射線療法看護」12名、「11月9日がん化学療法看護」32名、「11月23日集中ケア」17名、「11月30日感染管理」31名、「12月7日皮膚・排泄ケア」15名、「12月14日がん専門看護」19名の8回実施

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	佐多 竹良
管理担当者氏名	医療情報部長 松田 晋哉、放射線部長 興梠 征典 看護部長 長野 裕子、薬剤部長 浅原 稔生 病院管理課長 吉田 剛、医事課長 綽 敏彦

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要 約 及び入院診療計画書	病歴室 薬剤部 放射線部 看護部 各診療科外来 病院管理課	月別にて電子カルテ及びそれぞれの 部署にてファイル形式において、 管理している。 診療録を病院外に持ち出す事は厳禁 としております。
高度の医療の提供の実績	病院管理課	毎年度ごとに電子媒体において管 理及びファイルにおいても管理し ている。
高度の医療技術の開発及び 評価の実績	病院管理課	
高度の医療の研修の実績	病院管理課	
閲覧実績	病院管理課	
紹介患者に対する医療提供 の実績	医事課	
入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳 簿	医事課及び薬 剤部	
医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	医療安全管理 部及び病院管 理課	
医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	医療安全管理 部及び病院管 理課	
医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	医療安全管理 部及び病院管 理課	
専任の医療に係る安 全管理を行う者の配置 状況	医療安全管理 部及び病院管 理課	
専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	感染制御部及 び病院管理課	
医療に係る安全管理を 行う部門の設置状況	医療安全管理部 及び病院管理課	
当該病院内に患者か らの安全管理に係る相 談に適切に応じる体制 の確保状況	医療支援課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部及び病院管理課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部及び病院管理課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部及び病院管理課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部及び病院管理課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全管理部、薬剤部及び病院管理課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部、薬剤部及び病院管理課
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部、薬剤部及び病院管理課
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、薬剤部及び病院管理課
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全管理部、臨床工学部及び病院管理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部及び病院管理課
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部及び病院管理課		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部及び病院管理課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 辻塚 勲	
閲覧担当者氏名	病院管理課長 吉田 剛、病院管理課課長代理 古賀秀忠	
閲覧の求めに応じる場所	診療情報等閲覧室	
閲覧の手続の概要 病院事務部入り口に診療情報等閲覧受付と表示しており、閲覧希望者が来院された際には、病院管理課にて受付を行い、病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧簿に氏名等を記載して頂き診療情報等閲覧室にて閲覧することとなっている。		

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医 師	延 0件
	歯科 医 師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 医療安全に関する基本的考え方 医療安全のための委員会に関する基本事項等 医療安全のための職員研修に関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年29回
・ 活動の主な内容： (医療安全対策委員会 8回、医療事故防止委員会 11回、医療安全管理委員会 10回) 1) 医療安全対策の検討に関すること。 2) 医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること。 3) 医療安全対策並びに医療事故防止のための啓発、教育及び広報に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 32回
・ 研修の主な内容： 1) 医療安全対策に関すること。 2) 医療事故防止に関すること。 3) 医薬品安全使用に関すること。 4) 医療機器安全使用に関すること。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) インフォームド・コンセントに関する指針の見直し(電子カルテのICテンプレートを使用し患者や家族の反応を具体的に記載し、反応および説明内容を外来ファイル、入院ファイルに残す。一定以上の危険性を伴う投薬についてもICを必要とすることを追加) 2) 持参薬の運用方法について定めた 3) 全死亡症例について、ICの実施状況等確認 4) 持参薬の運用方法について定めた 5) 外来、病棟等巡視を行い、環境評価を実施、転倒事故防止のための提言、レクチャーを行った。 6) 院内歩行器使用のための「歩行器使用基準」を作成し、運用方法の統一をした。 7) 院内トイレの状況調査を実施し、必要な部署に体幹を支える安全レバーを設置した。 8) 救急カート見直しWG会議を立ち上げ、カート標準化のための品目、薬品等の検討を行った。 9) 心電図モニターの使用と日常の管理方法について巡視をおこない、チェック項目を定め周知を図った。 10) B型肝炎患者に対するスクリーニング検査実施に対するアラートシステムの開始 11) その他医療安全対策の推進に関すること	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(4名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(3名)・無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理部 専任（ 4 ）名 兼任（ 5 ）名 専任：部長（1名）、医療安全管理者（1名）、看護師（1名）、事務職員（1名） 兼任：医薬品安全管理責任者（1名）、医療機器安全管理者（1名）、 医師（3名）</p> <p>感染制御部 専任（ 3 ）名 兼任（ 6 ）名 （専任：感染制御担当医師（ 1 名）病院感染対策者（ 1 名）感染制御担当職員（ 1 名） 兼任 ：部長（ 1 名）感染制御担当医師（ 1 名）感染制御担当職員（ 4 名）</p> <p>※医療安全対策にかかる事務部門：病院事務部病院管理課（4名）</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療事故および感染防止のための研修・教育 2) 医療事故および病院感染発生を防止するための情報収集、分析、対策立案、フィードバックおよび評価を行うこと。 3) 医療事故および病院感染に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認および指導に関すること。 4) 患者や家族への説明など医療事故および病院感染発生時の対応状況についての確認および指導に関すること。 5) 医療事故及び病院感染の原因究明が適切に実施されていることの確認及び指導に関すること。 6) 医薬品に係る安全管理及び使用に関すること。 7) 医療機器に係る保守点検及び安全使用に関すること。 8) 医療安全対策に係る連絡調整に関すること。 9) 医療安全、病院感染防止に関するマニュアルの整備、改訂 10) その他医療安全対策の推進に関すること。 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：本院では、感染防止対策マニュアルII 病院感染防止に関する事項の中に、院内感染防止対策の基本指針として策定している。</p> <ul style="list-style-type: none">① 院内感染対策に関する基本的な考え方② 病院感染防止委員会の組織に関する基本事項③ 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本指針④ 感染症の発症状況報告に関する基本指針⑤ 院内感染発生時の対応に関する基本指針⑥ その他の院内感染防止の推進のために必要な基本方針 <p>その他、感染防止対策マニュアル内の標準予防策＋感染経路別予防策等感染防止対策各論など</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 6 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">① 病院感染防止委員会16回② 医療安全対策の検討及び研究③ 病院感染の分析及び再発防止策の検討に関すること。④ 病院感染防止のための啓発、教育及び広報に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">① HIV感染症・針刺し事故・皮膚粘膜曝露事案に対する対応② 抗菌薬の適正使用について、感染防止マニュアルの変更点について③ 内視鏡洗浄機の非結核性抗酸菌汚染、セラチア、VRE対策	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>JHAISのカテーテル関連感染症サーベイランスへ参加しており、その結果を感染制御部 Information等で全職員に対して情報共有している。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">① 感染制御部ニュースの発行にて広報② セーフティマネージャー連絡会議を通じて広報③ 委員会を通じて広報 <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">① 手洗い石鹸自動ポンプの順次設置② 病院職員の抗体価検査と予防接種の実施 (麻疹、水痘、風疹、ムンプス)③ 病院感染サーベイランスの実施④ 感染性廃棄物分別の徹底⑤ 抗菌薬適正使用セミナーの開催⑥ 地域連携の充実⑦ 体調不良者リストによる職員の感染者の早期発見 (インフルエンザ流行期)	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 医療安全の取り組み～疑義照会とその警鐘事例から～2) ハイリスク薬3) 麻薬の適正管理と使用4) インスリン治療のリスクマネージメント5) 抗がん剤の安全な取り扱い、院内での副作用報告の流れ6) 薬剤のインシデント・アクシデント事例	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (有・無)・ 業務の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 医薬品の採用2) 医薬品の購入管理3) 医薬品の管理4) 与薬指示・調剤5) 患者に対する与薬や服薬指導6) 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い (収集、提供)7) 他施設との連携	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 薬剤師による処方せん・注射箋の疑義照会2) 薬剤師による病棟及び外来の院内ラウンドの実施3) インスリン・スライディング・スケールの院内標準化4) ハイリスク薬の定義と適正使用のための指導と啓蒙5) 医薬品安全使用のための業務手順チェックリストの作成6) 持参薬の鑑定と初回面談7) 薬歴ファイルに基づく化学療法処方監査の徹底8) 入院・外来化学療法患者に対する注射用抗がん剤の調製と服薬指導	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 32回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 酸素療法2) 心電図3) モニタの安全管理4) 人工呼吸器5) シリンジポンプの演習6) 救急処置と A E D7) 血液浄化8) 閉鎖式保育器	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (①・無)・ 保守点検の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 人工心肺装置及び補助循環装置2) 人工呼吸器3) 血液浄化装置4) 除細動装置5) 閉鎖式保育器6) 診療用高エネルギー放射線発生装置7) 診療用放射線照射装置	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (①・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 医療機器安全管理ワーキングの開催2) 医療機器に関する情報の収集3) 収集した医療事故等の情報を医療安全情報により院内に周知	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 平成22年4月25日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ・住民及び患者が当大学病院を適切に選択できるように以下の方法で情報発信を行っている。 1 病院ホームページを通じて、各診療科が担当する疾患の診断及び治療方法等の紹介、先進医療の紹介、がん診療実績の紹介。 2 がんに対する検診や治療方法などについて専門医による講演を行う市民公開講座の開催。 3 新聞紙面での手術等の診療実績の掲載。 4 テレビ等への出演による治療方法の説明。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 1 がんセンターにおいて、集学的治療の実施、緩和医療の提供、がん相談支援等を行っている。 2 総合周産期母子医療センターにおいて、ハイリスク妊娠管理、大量出血、DICなど集学的治療が必要な症例に対して集中的に治療を行っている。 3 血友病センターにおいて、個々の患者様が抱える問題を多面的にとらえ、テーラーメイドの医療を提供するために内科、小児科、整形外科、リハビリテーション科並びに歯科口腔外科の担当医による他科連携での診察を毎月1回第1水曜日に実施している。	